

福島第二原子力発電所からのお知らせ

2017年 6月号

東京電力ホールディングス
福島第二原子力発電所

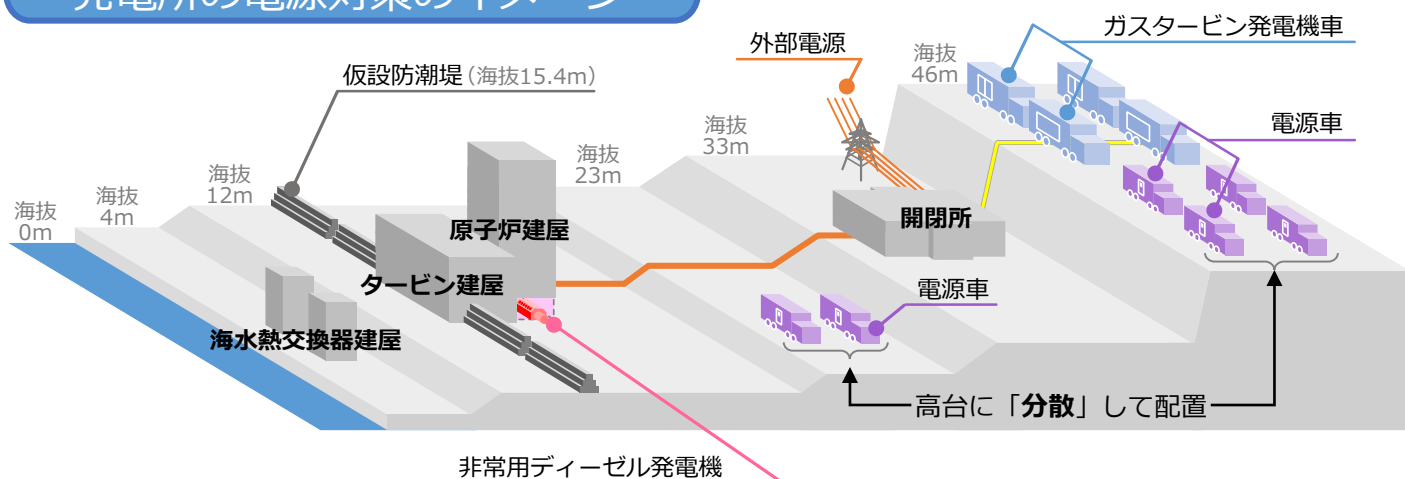
1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取り組みをお知らせします。

電源を絶やさないための対策

発電所にある燃料は、すべて原子炉建屋内の使用済燃料プールで保管・冷却しています。燃料を冷やすための設備の多くは「電気」を必要としますので、現在は発電所とつながる送電線（外部電源）から電気を受けて、それらの設備を動かしています。

また、自然災害などにより外部電源が受けられなくなった場合に備えて、福島第一原子力発電所の事故以降、電源設備のさらなる安全性・信頼性の向上をはかっています。

発電所の電源対策のイメージ



◆電源の「多様化」と「多重化」

～ 原理の異なる対策を複数用意する「多様化」と、バックアップとして同じ設備を複数用意する「多重化」とを組み合わせて、電源のさらなる安全性・信頼性の向上をはかっています。



各設備は、定期点検や確認運転、日々のパトロールを通して健全性を維持しています。

みなさまのご質問におこたえします

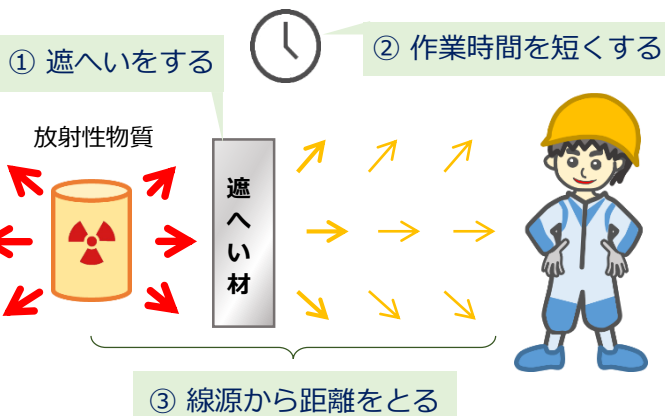
Q. 原子力発電所で働く人たちの放射線管理はどのようにしているの？

A. 作業ごとに線量低減対策を行い、作業で受ける放射線量を合理的に達成可能な限り低く抑えられるように管理しています。

放射線量を低く抑える計画を立てて作業します

作業時はもちろん、定期的な測定も実施しています

線量低減の主な方法



作業の際は、放射線量が計画通りに低く抑えられているかを適時確認しています。

個人線量計

作業時に装着し、外部から受ける放射線量を測ります



ホールボディカウンタ

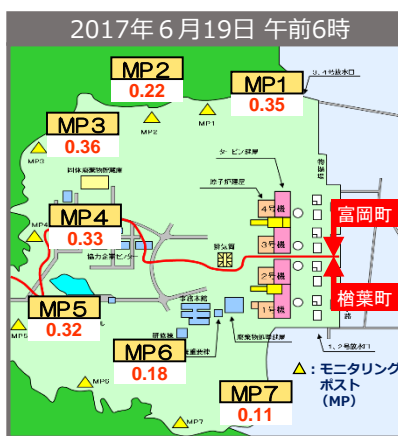
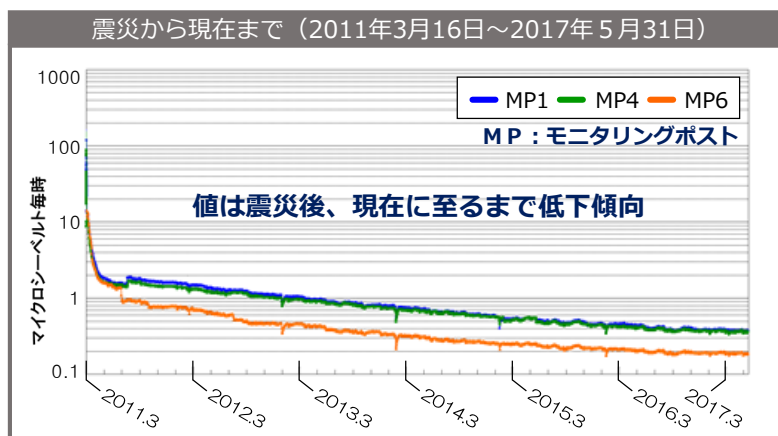
体内の放射性物質の量を定期的に測ります



当発電所における放射線管理区域で働く一人あたりの放射線量は、年間平均で約0.1ミリシーベルト*です。

* 2016年度実績

発電所周辺の空間線量率



参考データ

原子力規制委員会
放射線モニタリング情報より
(2017年6月19日午前6時)

富岡町
文化交流センター
(富岡町役場敷地内)
0.200
マイクロシーベルト毎時

楡葉町
楡葉町役場
0.095
マイクロシーベルト毎時

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて1～4号機の使用済燃料プールで保管しています。
- プール水温度は約30℃で管理し、常に監視しています。
- プールの冷却が停止した場合、管理上の上限温度(65℃)まで5～7日と評価しています(すみやかな冷却の復旧に努めます)。

	1号機	2号機	3号機	4号機
燃料の保管数	2,534体	2,482体	2,544体	2,516体

編集後記



晴天に恵まれた6月4日、楡葉町内で「ならばならではごみ拾い」が行われました。

私もお近所の皆さんと花苗植えや道端のごみ拾いをして汗を流しました。街並みが花で彩られるのを心待ちにしています。【関】

福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

ご質問・ご不明な点がございましたら下記にお問合せ下さい。